

前方展望
シリーズ

485系特急 北越 新潟一金沢



● RB-141057R/228分 6,270円 (税込)

※本品はBD-Rでの販売です。

■撮影日/2010年10月7日 晴時々曇

■撮影列車/特急北越4号 485系6両編成 クロハ481-3037

■展望区間/新潟(10:12発)⇒金沢(13:53着)

■本編の概要■

新潟を発車し、左に新潟車両センターを見て進んで行く。新潟は羽越本線と磐越西線とが接続する要衝駅だ。越後平野の田園地帯を走り抜け、上越新幹線が現れると長岡に着く。宮内の上越線が分岐し、信濃川を渡る。柏崎にかけては山間部を越えて行く。柏崎からは日本海沿いに走り、犀潟の手前で北越急行線が合流し直江津へ向う。直江津からは北陸本線を進み、しばらく長大トンネル区間が続くが、時折望める日本海は絶景だ。新幹線工事が進行中の糸魚川を経て、境川を渡ると富山県となる。黒部から滑川辺りにかけては、富山地鉄と並走する区間がある。富山は新幹線工事のため、仮設駅となっていて、過渡期の様子も見られる。石動を通過し、倶利伽羅峠付近も着々と新幹線工事が進められている。津幡で七尾線が合流し、新幹線工事もたけなわの金沢に到着する。



- 企画・制作・発売元 テラダプロジェクト
- 協力 西日本旅客鉄道(株)
(株)ジェイアール西日本コミュニケーションズ
- JR東日本商品化許諾済・JR西日本商品化許諾済

◆展望本編の主なキャプチャ画像◆ (北陸新幹線開業により、第三セクター化された直江津～金沢の映像を多めにキャプチャしています)

※本作の映像は2010年に収録しています。収録の映像や解説、駅名等につきましては、当時のものですので、あらかじめご承知おき下さい。
※制作の都合上、新潟→直江津では車内放送音を明瞭に収録していません。



地上駅時代の新潟を発車し、一路金沢へ！
閑散としているホームが侘しい。



新潟車両センターには、485系や115系などの国鉄形車両が多く見られる。



貨物列車の牽引機も、まだEF81形が主力であった。(東三条～三条)



長岡に到着。県内第2の都市だけに、多くの乗車がある。



日本一の長さを誇る、信濃川を渡る。
(来迎寺～前川)



青々とした日本海が広がる鯨波の有名撮影地付近を走る。
(鯨波～青海川)



直江津からは北陸本線を進む。信越本線は左へカーブして離れていく。



長いトンネル区間で、時折垣間見える日本海の美しさは印象的だ！
(谷浜～有間川)



交直セクションを過ぎると糸魚川。駅の前後は新幹線の高架工事がかなり進んでいる。



境川を渡ると富山県。新潟県内の走行が、全行程の半分以上を占める。(市振～越中宮崎)



左側を並走する富山地鉄の電車と顔を合わせる。(魚津～東滑川)



新幹線工事に伴い、富山は仮設駅となっている。過渡期の様子が窺える。



「はくたか」は「北越」と共に新幹線金沢開業時に使命を終えた。
(西高岡～福岡)



倶利伽羅峠あたりでも新幹線工事が進行中だ。峠を越えると石川県に入る。(石動～倶利伽羅)



419系は新幹線金沢開業よりも前に姿を消してしまった。
(森本～東金沢)



金沢に到着。左に工事途中の新幹線が望めるが、まだ線路も敷設されていない。

※キャプチャー画像は、お手持ちのパソコンやテレビ等の環境により、実際の映像より色味が違って見える場合がございます。

■前方展望 (R) シリーズは、テラダプロジェクトの登録商標です。

パンフレット作成 2024年12月

Terapro@Direct